あなたがつくる
庄原暮らし
SHOBARA LIFE YOU CREATE

わたしたち、自然と暮らしてます

庄原へようこそ

庄原市は、広島県の北東部にあります。
島根県、鳥取県、岡山県に隣接し、中国山地のほぼ中央。
中国地方へのアクセスがとても便利です。
春は国営備北丘陵公園の花々が咲き誇り、
夏は国定公園帝釈峡が避暑地に。
秋は登山が気持ちよく、冬になれば4ヵ所のスキー場が賑わいます。
市民にも人気のゆるキャラ「ヒバゴン」と「キョロやまくん」が
庄原市を盛り上げてくれています。
農業が盛んで、全国的な食味コンクールで
高い評価を得ている米のほか、
ネギ、トマト、ホウレンソウ、りんごなど
様々な農産物が生産されています。
また、由緒ある和牛の産地で、
最古の蔓牛（つるうし）の系統を受け継ぐブランド牛「比婆牛」の生産のほか、
鶏卵や生乳など畜産業も盛んで、
農畜産物の総生産量は県内一を誇ります。
人口は約3万7千人で、
総面積は琵琶湖の約二倍の大きさの1246.49㎢。
市街地には便利な大型スーパーや病院がありますが、
少し車を走らせると里山風景が広がり、
暮らしを楽しむ人の姿が溶け込みます。

あなたがつくる
庄原暮らし

広島県庄原市に引っ越した。
中国山地のど真ん中。
見渡す限りの山、山、山。
まず驚いたのは空気が美味しい。
あと野菜が美味しい、本当に。
畑から直に食卓に届く。
地域づきあいの濃厚さは
都会にはないもので、
とても安心できる。
何百年前から続く地域の祭り、
いつか自分も担えるのかな。
豊かな資源を見ていると、
やりたいことが沸々と湧いてくる。
これが本当の「豊かさ」なのかな。

里山につどう人々

広島県の中でも自然あふれる庄原市。森に近く、自然と共存して暮らすひとたち。最近増えています。

庄原暮らし歴 6年

前田賢治（まえだ けんじ）さん

まえだ農園 代表

〈 家族構成 〉
前田 賢治さん
妻 智永（ちえ）さん
息子 太基（たいき）くん
娘 有紀（ゆうき）ちゃん
娘 安紀（あき）ちゃん
母親 万里子（まりこ）さん

トマト農家に転身 新鮮な日々に感謝

広島県の最北端に位置する高野町は、冷涼な気候のおかげで高品質な農産物が採れ、特産のりんごと大根は県内でも有名。若い農業者が多い地域でもある。冬には雪の多さを活かし「雪合戦」の広島県大会が開かれる。

会社員時代、近隣への転勤を機に、妻の智永さんと高野町へ帰ってきた前田さん。地元で農家を営む同級生たちと集う時間を持ち、そこで聞く「ものづくり＝農業」の話題は前田さんの農業への想いを強くするばかり。忙しい毎日に追われながらも休日を利用して農業研修に参加するなど下準備を進め、2014年3月末で19年間勤めた会社を退社。翌日の4月1日から農家としての一歩を踏み出した。

「人生は一度きり、自分が思った道を進もうと。何より農業にふさわしい恵まれた環境が目の前にありました。市役所や農協をはじめ、地元の人たちの協力もあって心強かったです」と前田さん。

見渡す限り広がる田園風景の中に太陽の光でキラキラと輝く9棟のビニールハウスで、アンジェレという糖度の高いブランドミニトマトを主力に生産している。色々な栽培方法を試し、結果をすぐに見られるのも農業の楽しさだそう。

「アンジェレ」という糖度の高いブランドミニトマトを栽培。いろいろな栽培方法を試している。

前田さんらが営む農家キッチン「とまり」では、自家製のトマトや季節に応じた野菜や山菜が使われた定食が人気メニュー。「道の駅たかのだけでなく、尾道松江線を降りて、りんご狩りをしたりこのお店まで足を伸ばすなど高野町を知ってほしい」と前田さん。

農業を志した時から、地域貢献への想いはあったという前田さん。現在は合同会社を設立して加工品開発や店舗運営も行っており、広島県で3年ぶりに農林水産省から六次産業事業者として認定も受けた。前田さんが作るトマトがふんだんに使われた料理が食べられる農家キッチンでは、バイタリティ溢れた姿で働く地域の方や県内外から訪れる来客で活気づいており、地域に新たな賑わいを生んでいる。

「夢は高野に住む人が増えること。うちは空いた部屋がたくさんあるので、ここで農業をしたい方がいれば受け入れていきたいですね。」地元の農業者に感化され農業を志した前田さん。今では農業を志す若者やこの町に活力を与える存在となっている。

智永さんとお母さんの万里子さん、保育園に通う3人の子どもの6人家族。子どもたちは率先してお手伝いをしてくれるそう。

学生時代は国体出場、実業団のスキー部でも活躍した前田さん。現在、冬の間は広島県の競技スキーのコーチを務めている。

「これ食べられるんよ」と山野草を採ってきたり、自然の中を走り回ったりしている子どもたち。日々新しい発見を持ち帰る子どもたちの側にいつもいられる環境こそが、前田家の幸せ。

たよれる！

温かい仲間がいる「頼母子（たのもし）」会

同級生の会、ママ友の会、祭りの会、お嫁さんの会など、高野町には「頼母子」と呼ばれる集まりがたくさん！　人と人との絆が強い田舎ならではの集まり。

宝石のようにキラキラと輝くアンジェレ。収穫後は首都圏の高級スーパーなどで販売されている。

試作で作ったストールやこれから周くんの服になる生地。染色は近所に自生した植物や庭のマリーゴールドで染めている。「色留め」の工程でも化学薬品を使わないのでほんのりした色あいに仕上がる。

大きなはたおりをバタバタとならしながら布にしていく。全ての工程で化学薬品を一切仕様しない国産オーガニックコットンの布を作るのは並大抵のことではないが、千絵さんは手間のかかる工程を育児の合間に少しずつ行っている。

綿の収穫からはたおりまで全て手作業。綿から糸にする工程は微妙な力加減で糸の太さが変化し手つむぎならではの温かみのある糸に仕上がる。糸車やはたおりなど古道具は英馬さんがメンテナンス。

庄原暮らし歴
3年

上田（うえだ） 千絵（ちえ）さん

染織作家

〈家族構成〉
上田 千絵さん
夫 英馬（えいま）さん
息子 周（あまね）くん

町全体が結婚を祝福！現在は綿花作りに挑戦中

口和町へ2015年に移住してきた千絵さん。結婚、出産、子育てといった人生の大切な節目をこの町で経験した。「人情味あふれる人たちばかりで、わからないことは教えてくれるし、お裾分けも頻繁にしてくれるのでありがたい。息子の成長も孫のように見守ってくれています」と地域の方と交流を深め、移住3年目ながらすでに里山での生活をしっかりと送っている。大学在学中に発生した2011年の東日本大震災と福島県の原発事故以降、改めて衣食住に目を向け、暮らしの本質を見つめ直したいと考えるようになり移住を決意。2012年に福島県いわき市から口和町へ移住した福元さんが営む「ふくふく牧場」の再建を夫の英馬さんが手伝ったことがきっかけで口和町の魅力を知り、移住先に決めた。住居は口和自治振興区の地域マネージャーがサポート。「定住前の相談で不安も解消されました」と英馬さん。移住後、2人のために地域の人たちが盛大な結婚式を行って話題に。2人の門出を祝福しようと沿道には300人もの町民が集まったそう。晴れ姿は庄原市の広報紙の表紙も飾った。「消防団の余興などとても楽しく温かい結婚式をしていただきました」と笑顔で話す。千絵さんは現在、周くんの子育ての合間に染織を行っている。緑豊かな口和町に住むなら、畑で綿花を育て、植物で染色し、からだに優しい布製品を作りたいと思い大学院を卒業後、倉敷で染織を学んだ。「まずは家族が着る服から作っていきます」とスタートしたばかり。将来は土間をギャラリーにして、布製品や英馬さんが畑で作った無農薬大豆の加工品を販売するそう。ギャラリー完成の日が今から待ち遠しい。

千絵さんは山口県長門市出身。夫・英馬さんは石川県小松市出身。周くんは積雪60cmを記録した大雪の日に自宅出産にて誕生した。近所の人からは頑固者、意思の強い子という意味の方言「しごんぼ」と呼ばれて可愛がられているそう。

自然を相手に日々新しい遊びを発見

子どもは自然を相手に次々と新しい遊びにチャレンジ。近所の川や山は絶好の遊び場に。自然の中で危険を見極める力も自ずと身に付きます。

庄原は寒い上、湿気も多く綿栽培には不向き。しかし同じ様な気象条件で育つ品種「会津和綿」を英馬さんが見つけ、現在は4品種育てている。毎年種を取り土に馴染ませ、綿作りに適した土壌作りを続けている。

「食の大切さを感じている」と話す夫妻は、米も野菜も無農薬で育てているため手入れに余念がない。田植えは機械を入れず、手作業で行った。近所の人や同じように移住してきた家族が手伝ってくれる。

庄原暮らし歴
8年

吉岡（よしおか） 紘（ひろし）さん

吉岡香辛料研究所 代表

〈 家族構成 〉
吉岡　紘さん
妻 美歩（みほ）さん
娘 雪乃（ゆきの）ちゃん
柴犬 なな

動機は「楽しいから」激辛唐辛子で勝負

「今は忙しいけど楽しいです。当然リスクはありますけど、好きなことをやって、好きな生活ができれば一番面白いと思うんですよ。」そう語る吉岡さんは、東城町で「トウガラシ」と日々向き合っている。

大学進学を機に故郷の東城町を離れ、7年間の医療法人勤務を経て妻の美歩さんとともに帰郷。休耕田になっていた祖母の畑に何かを植えようと考えていたとき、偶然見かけ購入したのが激辛唐辛子として有名なハバネロ。「たまたま植えたらうまくできたんです。それを友人に食べさせて、反応を見るのが楽しくて」と笑顔で話す吉岡さん。それがエスカレートして様々な品種を植え、激辛の世界に没頭していったそう。加工・販売まで一人で手がけ、「吉岡香辛料研究所」として様々な場所や着想で積極的にプロモーションを行っている。

「自分を見て挑戦する人が続いてほしい」と話す吉岡さんが目指すのは、自身が先ず成功事例となって、この町に移り住みチャレンジする人が現れること。今の生業に至ったのも、"子どもたちの世代に生活できる環境を残したい"との強い想いからだそう。都市部に比べ不便に感じることも当然ある。しかしそれ以上に、自身のライフスタイルを貫くには最適の環境がそこにあった。「好きなことをやってそれで食べられることが証明できれば、それに続く人が出てくるはず。」吉岡さんの決意は固い。

好きが高じて始めた唐辛子づくり。そこに込められた家族やこの町への想い。吉岡さんが起こす余波でこの町はひと味もふた味も違う刺激的な町に変わりつつある。

ハバネロの約7倍辛く、世界一辛い唐辛子としてギネス記録に認定されているキャロライナリーパーなど5種類を軸に栽培している。

家の前に広がる成羽川のせせらぎで吉岡家には穏やかな時間が流れる。子育て環境については「小児科まで車で時間がかかるので、子どもが熱を出したときなどは大変ですが、交通量が少なくて保育所や小学校の遊び場が広いところは安心なんです」とのこと。

PRキャラクターとともにイベント出展も積極的に行っている。唐辛子を食べさせて反応を伺う動画の製作など多彩なアイデアも吉岡さんの強み。

東城町内の店舗には吉岡さんの作る唐辛子が並び、試食も可能。

かんどう！

見所たくさんの東城市街地

東城市街地を流れる成羽川の川岸は約600mの桜並木が続くスポット。同時期に行われるまちなみ春まつりでは、城下町ならではの風情が残る町並みに、雛飾りや各家のお宝が展示される。

「県外や海外からの観光客が宿泊できるゲストハウスを作りたい」と伊藤さんの夢は広がる。

窓の向こうにはのんびりとした山の風景。窓枠が額縁代わりになって、四季折々の景色を切り取ってくれる。

庄原暮らし歴
5年

伊藤（いとう）めぐみさん

『カフェ モルモル』
オーナー兼
プロダクトデザイナー

悩むより、行動！それができる町

「15歳の頃に飛び出した田舎をこんなにも好きになれたのは、温かく迎え入れてくれたこの町があったから」。穏やかな笑顔でそう話すのは、庄原市で『カフェ モルモル』を営む西城町出身の伊藤さん。とにかく都会に出たかったと高校入学を機に祖母が暮らす大阪へ。関西の高校、大学を経て、木工デザインを学ぶためスウェーデンの大学院へ留学。卒業後もスウェーデンに残りアーティストとしての活動を続けていた。2013年、28歳のときに帰国し、生活拠点を整えるために一旦、故郷の庄原市へ。伊藤さんが留学中に住んでいた場所は田舎町。「13年ぶりに戻った故郷の景色は、スウェーデンの田園風景とリンクするものがありました。何もないからと一度はキライになった庄原を好きになり始めてたんですよね。自然に囲まれてのんびりと暮らし、田舎から発信するのもアリかなと思いました」。プロダクトデザイナーとしての活動を続けながら、いろんな人が集まれる場所を作ろうとカフェをオープン。

「庄原は、とりあえずやってみよう！が叶う町だと思います。空き家物件も多いですし、家賃も安い。飲食店をするなら競合店もなく、美味しい野菜もたくさんあります。何より、新しいものを受け入れてくれる地域の人々の温かさがありました」と伊藤さん。庄原市の魅力は豊かな自然と人の温かさ。県外や海外での暮らしを経験したからこそ、気づくことができたふたつの宝物。伊藤さんはきっと、もっとこの町を好きになっていくのだろう。

自家製シフォンケーキと一杯一杯丁寧に淹れるコーヒーが看板メニュー。週末はランチも提供。

伊藤さんがデザインしてデンマークで商品化したウォールクリップ。北欧のマーケットで販売中

大学時代の専攻が空間デザインだった伊藤さん。外観や店内は、大工として働く地元の同級生とタッグを組んで作った。

ほっこり♡

お金では買えない「ありがとう」

都会では購入していたものが善意で届くのも田舎ならでは。野菜や創作活動に必要な木材が届けられ、心からの「ありがとう」が飛び交う。

庄原暮らし歴
17年

中村 遊（なかむら ゆう）さん

P-SPACE 代表

最先端のIT技術を田舎から世界へ発信

『日本全国どこにいても、仕事はできる』。近年、注目を集めるワークスタイル。「どこで」ではなく「何を」するかに重点を置き、ふさわしい場所で仕事をしようという流れがある。約15年前にこの考えに辿り着き、庄原市でソフトウェア開発をスタートさせ、日本全国に発信しているシステムエンジニアがこの町にも。中村さんは、福岡県の大学院を卒業後、東京の大手IT関連企業に就職。成し遂げたい仕事、やりがいのある仕事を追求する中で独立を考えるようになり、庄原市へUターン。「この仕事ならインターネットさえあれば、どこでもできる。当時、地元の庄原市は東京と比べるとIT関連の設備は2～3年遅れていて。だけど、その一方で高齢化社会の最先端を走っている。この状況をチャンスだと思ったんです」。独立してからは、地域の人々にパソコンに馴染みを持ってもらおうとパソコン教室を開設。教室以外に、地元高校の臨時講師をしながら、牛の競りを分析するソフトや学校の成績表を管理するソフトなど地域に密着したソフトの開発に携わってきた中村さん。現在は、日本各地の教育委員会から依頼を受けて構築するソフトウェアの開発と運営を行っている。仕事場は実家の敷地内に構えた個人事務所。デスクの横には愛犬のジョアが寝そべり、どんな時でも温かく見守ってくれる両親の姿もすぐそばに。そんな、幼い頃当たり前だった光景も、一度都会に出たことでとても愛おしく思える光景になっているのだ。🐾

いつも横にある家族の笑顔。世界中どこにいてもできる仕事だからこそ仕事場として選んだのが生まれ育った故郷だった。

仕事で煮詰まった時は愛犬ジョアと散歩タイム。小川のせせらぎや鳥の声をBGMに歩くことで気分転換に。

「例えば高齢者の見守りシステムなど、高齢化が進む田舎だからこそ湧き出るアイデアもあります」と中村さん。

デジタルの世界に没頭する仕事だからこそ、こんな穏やかな光景が心のリフレッシュになるそう。

世界へと繋がる、中村さんの事務所。地域に根付いたものからグローバルなものまで、その構想は無限大。

感動！

地元人だけが知る、星降るスポット。

中村さんのお気に入りは、県立広島大学庄原キャンパスの近くにある絶好の天体観測スポット。星が降ってくる、そんな表現を体感できる場所。

松本さんは子育てに積極的に参加。休日は子どもたちと一緒に思いっきり遊ぶ。元気で楽しげな子どもたちの笑い声が町に響く。

小学生のひなたちゃんは徒歩で学校へ。自然豊かな通学路は子どもたちの好奇心をくすぐる発見がたくさん。

松本家はテレビを置かないルール。子どもたちは自転車で走り回ったり、生き物を飼育したりして自分たちで遊びを見つける。

口和町の観光交流拠点「モーモー物産館」のアイスクリーム屋で働く、妻のみのりさん。

「いつかは家の中と外が自然に繋がる土間のある家に住むのが夢。もちろん口和町内で！」と弾む声で語る松本さん。

庄原暮らし歴
4年

松本晋太（まつもと しんた）さん

会社員

〈 家族構成 〉

松本 晋太さん

妻 みのりさん

娘 ひなたちゃん

息子 大知（だいち）くん

娘 うみちゃん

移住＝地域の一員になるということ

「車で移住先を探している時に、ここだ！と思ったのが庄原でした」と庄原市の西部、三次市との境に位置する口和町で暮らす松本さん一家。庄原市に親族がいるわけでもなければ、転勤でこの地を訪れたわけでもない。口和町に無縁だった松本さんがここで暮らすことになったきっかけ、それはまずこの風景を気に入ったこと。「長女が生まれたときは神奈川県に住んでいましたが、自分たちのことはできるだけ自分たちでする、そんな【地に足の着いた暮らし】をしたいと考えていました。それが可能な田舎暮らしをするため、千葉県の外房へ移住をしました」。そこで松本さんが経験したのは東日本大震災。「また起こるかもしれない地震への不安を抱えながら、その一方で東北へボランティアに通ううちに、ふるさとを意識するようになり、出身地である広島県への移住を考えるようになりました」と松本さん。そこで次に暮らす場所を自らの目で見て探そうと、休日を利用して広島県内をドライブ。その際訪れた庄原市の雄大な山と広い空に囲まれた風景は、夫妻が思い描く景色そのものだった。移住を決意した後は、千葉県に住みながらインターネットで再就職先を探し、見事採用。移住後も会社員として働いている。「家探しなどを親身になって協力してくださった口和町の人たちの優しさに触れるなかで、風景だけでなく人の温かさを含めて口和という地域に魅かれ、この地域の一員になりたいと思いました。今度は僕たちが移住のお手伝いをしてこの町に恩返しをしたいです」。自分で見つけた住みかで子どもたちに囲まれてイキイキと里山暮らしを送っている。

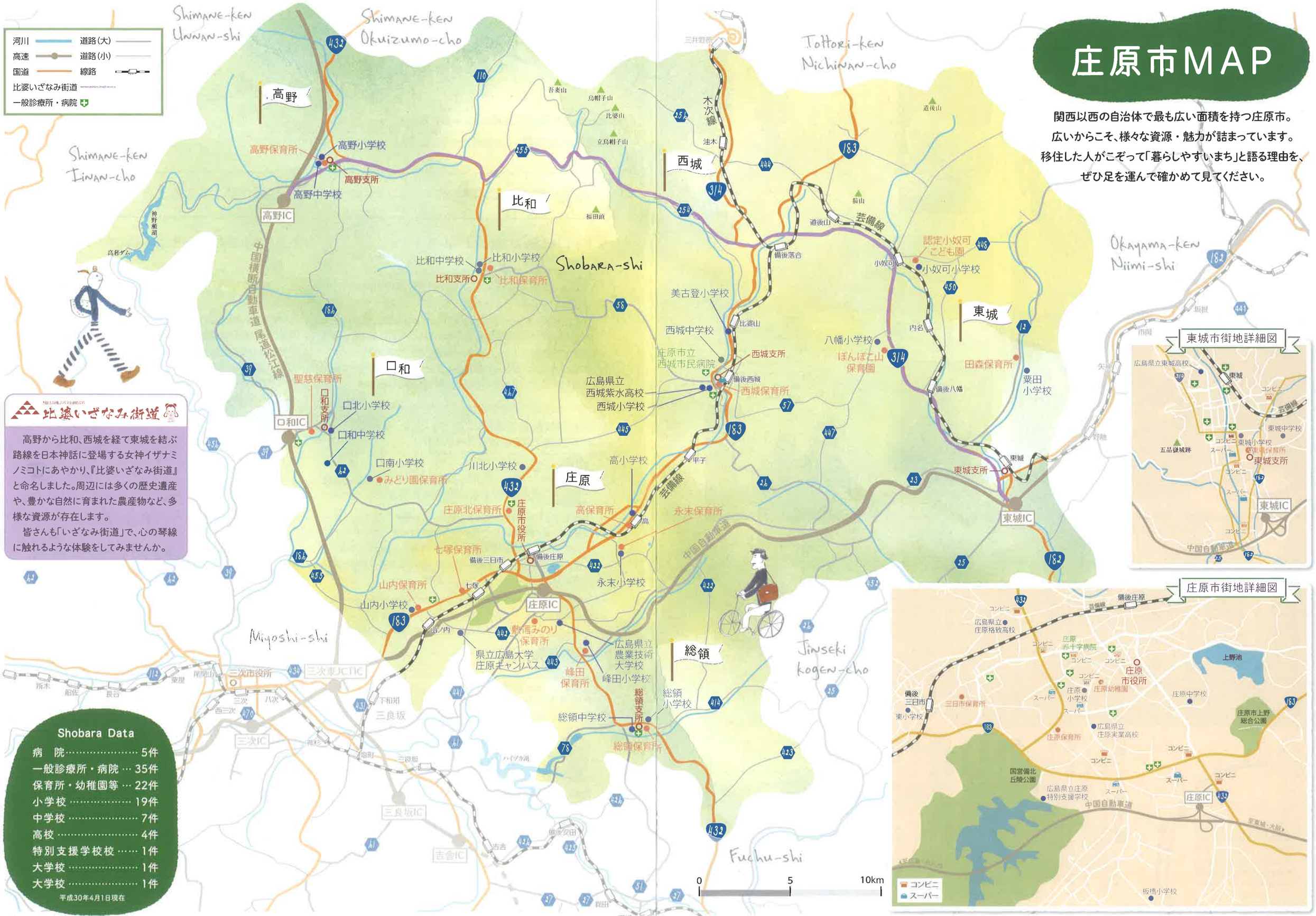
おいしい！

モーモー物産館で町の宝さがし

松江自動車道（無料区間）の口和IC近くにある「モーモー物産館」は町内の野菜や特産品などが集まる町のオアシス。手打ち蕎麦や町内産のミルクで作るアイスクリームが人気。

庄原市MAP

関西以西の自治体で最も広い面積を持つ庄原市。
広いからこそ、様々な資源・魅力が詰まっています。
移住した人がこぞって「暮らしやすいまち」と語る理由を、
ぜひ足を運んで確かめて見てください。



比婆いざなみ街道

高野から比和、西城を経て東城を結ぶ路線を日本神話に登場する女神イザナミノミコトにあやかり、『比婆いざなみ街道』と命名しました。周辺には多くの歴史遺産や、豊かな自然に育まれた農産物など、多様な資源が存在します。

皆さんも「いざなみ街道」で、心の琴線に触れるような体験をしてみませんか。

Shobara Data

病　院	5件
一般診療所・病院	35件
保育所・幼稚園等	22件
小学校	19件
中学校	7件
高校	4件
特別支援学校校	1件
大学校	1件
大学校	1件

平成30年4月1日現在

庄原市で暮らすためのHow To!

「田舎暮らしは正直不安があるなぁ」
移住前は、いろんな不安や疑問があるもの。

「移住したいけど何から始めたらいいんだろう…」。
そんな疑問に、庄原暮らしの先輩がお答えします！

仕事に関すること

? 移住したいけど、職に就けるか不安です。

私がお答えします
武下雄一さん　庄原市役所企画振興部商工林業課勤務　庄原暮らし歴5年

庄原市にはさまざまな業種の企業・会社があります。新たな人材を必要としている事業所も多いです。「ハローワーク庄原」で職を探すことができますし、インターネットで求人情報の閲覧もできます。人のつながりがあれば伝手（つて）も有効な手段です。市内に事業所を置く企業・会社の合同就職面接会も開催しています。

? 移住後は起業を考えています。何か利用できる制度はありますか？

私がお答えします
浅尾千絵さん　大阪府からUターン「Cherie Hair Salon」経営　庄原暮らし歴3年

起業をするなら「創業サポート補助金」があります。審査会で採択されれば、店舗等の設置費や借上げ費、また市場調査費にかかる経費の一部が補助されます。起業には資金がかかりますが、このような制度のおかげで、私も負担を減らして美容院をオープンすることができました。

農業に関すること

? 自然豊かな庄原市で農業がしたいと思っています。どうすればいいですか？

私がお答えします
新宅幸裕さん　庄原市役所企画振興部農業振興課勤務　庄原暮らし歴25年

農業には特有のルールが多く、農地の使用や売買には通常、農業委員会への届け出が必要です。特に売買の場合は必要な条件があります。農業に関する支援制度など就農に関するアドバイスももらえるので、早めに関係機関へ相談しましょう。

住居に関すること

? 住む家を探すにはどうしたらいいですか？

私がお答えします
坂本義孝さん　庄原市総合サービス株式会社勤務　庄原暮らし歴13年

どういった家を探しているかにもよりますが、方法としては大きく分けて「庄原市内の不動産業者」、「公営住宅」、「空き家バンク」の3つがあります。「空き家バンク」とは、市内の空き家情報を市が管理し、空き家所有者と移住希望者とをつなぐ制度です。例えば、家庭菜園を楽しみながら庄原で暮らしたい方や古民家で暮らしたい方、リノベーションに興味がある方は、「空き家バンク」の利用がおすすめです。利用するには登録が必要なので、専用サイトをチェックしてみてください。

こちらからチェック！

【 庄原市空き家バンクのしくみ 】

※不動産業者が仲介する場合もあります。

? 買った家が古いので改修したい。何か助成がありますか？

私がお答えします
宗藤良章さんご家族　三次市からUターン　庄原暮らし歴2年

私たちは「転入定住者住宅取得及び改修補助金」を利用しました。移住者が住宅を新築・購入・改修した際に受けられる補助制度で、補助率は新築・購入については費用の10%（上限100万円）、改修については費用の20%（上限50万円）です。子育て世帯にはさらに加算があります。こうした支援を活用し、Uターンすることができて、庄原市に住む喜びを日々感じています。

消費生活に関すること

? 買い物が不便というイメージがあります。

私がお答えします
高林直樹さん　東京都からIターン　庄原暮らし歴4年

近くに店がなく不便と言われますが、自家用車が使えれば困ったことはありません。渋滞もなく、駐車場が混むことはまずありません。買い物にかかる時間は都市部に住んでいたときよりも短時間ですんでいます。何でもそろうというわけではありませんが、都市部へのアクセスも良く、ネットショッピングなども利用すれば、不便さは感じませんよ。

住まいに関するそのほかの支援制度

市町村設置型浄化槽整備事業、生ゴミ処理機購入費補助、地域木材住宅建築普及奨励金など

子育てに関するそのほかの支援制度

出産祝い金、入学祝い金、乳幼児等の医療費助成制度

移住するためのPoint!

☑ 情報を収集する

豊かな自然が魅力の庄原市。その分、自然が暮らしに影響することも多くあります。移住を決める前に、どんな地域なのかを情報収集しておきましょう。実際に足を運んで地元の方に話を聞いておくことも大切です。

☑ 地域と積極的に関わる

庄原市には自治振興区という住民自治組織があり、環境整備や防災、地域おこしなどに取り組んでいます。自治会、常会といったさらに小さな組織単位もあり、近所の葬儀の手伝いや神社の行事などにも関わっています。こうしたご近所づきあいや地域行事は過度の負担にならない範囲で積極的に関わることが、地域に溶け込むコツです。

☑ 遠慮せず相談する

移住者の受け入れに積極的に取り組んでいる自治振興区ではコーディネート役を配置し、市が委嘱する移住定住コンシェルジュと連携・協働して、移住希望者の支援にあたっています。遠慮せず気軽に相談してみてみましょう。

? 就農者に対する支援制度はありますか？

私がお答えします
前田賢治さん　広島市からUターン　庄原暮らし歴6年

庄原市は農業が基幹産業というだけあって、農業支援も充実しています。私は研修を受ける際の給付金や、農業経営に必要な施設、機械購入の費用の一部を補助金で賄いました。この制度を受けられたことでスムーズに農業をはじめることができました。新たな就農者は総合的に支援が受けられるそうです。まずは市役所やJAへ相談してみましょう。

子育てに関すること

? 移住後の子育てが不安です。ママ友や相談相手はできるでしょうか。

私がお答えします
菱　千尋さん　東京都からIターン　庄原暮らし歴8年

1人目の子どもが生まれた際に、子育て家庭同士の交流や子育てサークルの活動支援などを行っている「子育て支援センター」へ行きました。はじめての子育てで不安がある中、アドバイスをもらい不安が和らぎました。この施設で友人もでき、交流の輪も広がりました。庄原市内に12施設あるそうです。

? 仕事と子育てを両立したい。子どもを預かってくれる施設はどの程度ありますか。

私がお答えします
下田真理さん　庄原市役所生活福祉部児童福祉課勤務　庄原暮らし歴3年

庄原市には子どもを預かる保育所などの施設が22カ所あります。それぞれ地域の特色を生かし自然の中でのびのびと教育・保育を行っています。また、多子家庭などを支援するため、保育料を世帯収入や第1子の年齢に関係なく、第2子は半額、第3子以降は無料としています。

Where is Shobara?

そもそも庄原ってどこにあるの？

庄原市のキャラクター

ヒバゴン　キョロやまくん

Access

空路で

広島空港	車 1時間40分	庄原

JRで

広島	快速・三次乗換 2時間	備後庄原

高速バスで

出雲	中国JRバス・一畑バス 1時間39分	三次	庄原
松江	一畑バス・広島電鉄 1時間57分	三次	庄原
米子	日本交通・日ノ丸自動車・広島電鉄 2時間3分	三次	庄原
広島	備北交通 1時間50分		庄原
新大阪	中国バス・阪急バス 最短3時間42分		東城

各種交通機関

車で

広島IC	約91km 約1時間20分	庄原IC
松山IC	約184km 約3時間20分	庄原IC
門司IC	約274km 約3時間30分	庄原IC
岡山・倉敷IC	約107km 約1時間30分	東城IC
高松中央IC	約171km 約2時間30分	東城IC
吹田IC	約247km 約3時間10分	東城
福山	約60km 約1時間30分	東城

Information

あなたがつくる
庄原暮らし
SHOBARA LIFE YOU CREATE

庄原の「今」がわかる
Facebookをチェック！

移住・定住に関するご相談は

庄原市 企画振興部 自治定住課　〒727-8501 広島県庄原市中本町一丁目10番1号

☎0824-73-1257（平日8時30分～17時15分まで）

teiju@city.shobara.lg.jp　0824-72-3322　http://www.city.shobara.hiroshima.jp/